



校正七部集  
坤

中村俊定文庫  
文庫 18  
885  
2



阿羅野

尾陽遠左權木堂主人荷分子集を編



く名をあらはれといふ何故乎此名有年  
を去るを予をるのふゆわいやふふはく世  
比郷山桃葉せしとらるくの書後をあら  
をく老の白とのふそ日のを并候  
まれ日まて世ううやうをけやや  
若やふいのそれ々々葉柳様の輝と  
らそひてふものおれくさまあふる風  
につまういさうの實ををあらふもの  
あれちあやのや申ふのいさうあふ  
をうれやのちあさうふあうして娘  
のちあふつのはてをさのたえふを  
てはあふのまをまうたのさ道さの  
るあをむははあふのあはれ  
へ

元禄二年誕生

芭蕉魁青

曠野集

花三十句

よりのあはく



あまはくくともりのり花の芳ゆき山	貞室
あまはくくともりのり花のあまはく	路通
あまはくくともりのり花のあまはく	信徳
あまはくくともりのり花のあまはく	晨風
あまはくくともりのり花のあまはく	友五
あまはくくともりのり花のあまはく	尚白
あまはくくともりのり花のあまはく	去来
あまはくくともりのり花のあまはく	野水
あまはくくともりのり花のあまはく	亀洞
あまはくくともりのり花のあまはく	越人
あまはくくともりのり花のあまはく	一井
あまはくくともりのり花のあまはく	俊似
あまはくくともりのり花のあまはく	崩弾
あまはくくともりのり花のあまはく	舟泉
あまはくくともりのり花のあまはく	胡及

もつあふ花のあまはく	津島	長虹
あまはくくともりのり花のあまはく	雨	ト枝
あまはくくともりのり花のあまはく	峻	鴈歩
あまはくくともりのり花のあまはく	雨	荷兮
あまはくくともりのり花のあまはく	薄芝	傘下
あまはくくともりのり花のあまはく	心苗	薄芝
あまはくくともりのり花のあまはく	越人	心苗
あまはくくともりのり花のあまはく	野水	越人
あまはくくともりのり花のあまはく	冬松	野水
あまはくくともりのり花のあまはく	冬文	冬松
あまはくくともりのり花のあまはく	荷兮	冬文
あまはくくともりのり花のあまはく	芭蕉	荷兮
あまはくくともりのり花のあまはく	芭蕉	芭蕉

阿羅野

杜宇二十句

あまはくくともりのり花のあまはく	同
------------------	---

ほろろと月を照らすものよ水はくはるかな  
 李吟 煮堂 釣聖 越人 松下 重五 柳凡  
 蠟燭のひかりや 蜀 魂 松島 松 下  
 ねん子の口まひまや 時香 重五  
 海や先鳥のつゝ 聖まきの影を  
 柳凡  
 ある人のわらわて 数自世の有り統を  
 龍彈 落拈 一髪 同  
 ちかほと 海のまうや ぼろろと  
 同 傘下

海ふく

馬と馬とをうあひたりしとき  
 鈍可

ふらふらと月を照らすものよ  
 大津 智月 李樹 市山

月三十句

かろくそ毎のうけり 月夜小 梅舌  
 上歳  
 とれうや月を照らすものよ  
 端水  
 月の光を照らすものよ  
 一雪  
 西の月を照らすものよ  
 越人  
 けうとそふ少強びく海板うれ 昌碧  
 舟わりの宵はさひや月の影 津島 市柳  
 とくけよほちて 縁る月夜うれ 一髪  
 とくそそえとちを海の中平か 長虹  
 確まて 祝抱く月見の那 任地  
 一の舟やソのこえるく人の月 龜洞  
 名月を照らすものよ 越人  
 名月やとふ十下を 文鱗

名月やういそそそはれ真  
昌碧  
あけのやもくしてあつくまの中  
傘下  
名月や鼓の音と犬のこゑ  
二水  
名月のとをえて人の月をふ  
野水

各月のふいそそそ

むつろと月と名月日たつ枝はし  
荷分

いけのふとあそとをれて名せ  
同

名月や海とかきを波山をんを  
去来

名月やも戸とむらな枝想つま宛  
朔及

めいそつとありそしたくを枝の形  
釣雪

宵あそく橋はさひくも月の影  
一髪

十三夜

新よとねくらぬ御えふ月夜は  
杉風

朔日

まじいふ月の勢われくあ果  
荷分

二日

なる人わくくもそそ月の夕を  
同

三日

ゆきのえんそそそとこりは月  
芭蕉

四日

夕月夜あそそそとそそそ  
ト枝

五日

何日とそそそそそそそそそそ  
伊豫 一泉

六日

浪河えそそそはや月乃そそそ  
四奇 鶴声

七日

能わふそそそそそそそそそそ  
峻亭 一髪

聖二十句

大はあそ

雪のりや照れくみの顔の色  
其角

いとゆうじきえふそそそそそそ  
芭蕉

竹のこきあそそそそそそそそ  
塵交

かきあそそそそそそそそそそ  
京 加賀 加生

車道まねそそそそそそそそ  
小春

そそそそそそそそそそそそ  
越人

はのそそそそそそそそそそ  
是幸

松芳  
 二水  
 息仙  
 除風  
 管竹  
 傘下  
 芳川  
 冬文  
 桂夕  
 荷兮  
 路通  
 野水  
 芳川  
 舟の字をいづのふれも海の君  
 ほろけ舟の君の足亦あり所  
 と川をやはらぎの船あつて磯まき  
 ちりくやほろけの酒強服  
 ちの言をねまややくや誓のち  
 君の物めつ縫もつるおろき  
 雲の江の大舟よりい少舟の那  
 初言やわあきるも始奇勢  
 君のりや川の中もつてほろけ  
 秋のをもおろきぬやう小枝おらん  
 雲の江もくもる屋ふまひる雀の那  
 くらとねふお信えり君の隈  
 ちのけのふらぬや君のいつか

歳旦

芭蕉  
 古梵  
 凡鈴軒  
 其角  
 二りわぬりいせふ花の美  
 むれへのふらぬらうら花の美  
 たりあや九千年のけろく縄  
 ねくさり伊勢の家買人とも誰

文麟  
 去来  
 一品  
 路通  
 一笑  
 一行  
 落楮  
 龍洞  
 同  
 昌碧  
 元廣  
 舟泉  
 同  
 重五  
 釣雪  
 同  
 一井  
 胡及  
 うまの石連歌ふあひつら者  
 月言のふあふとちり門のね  
 加さるふふあつて年うる柏り那  
 元歌や何かなんせとちりちり  
 えりいぬまきまうらうらけい  
 加賀  
 大垣  
 如  
 萬國や梅の糸うむらふいふ  
 大垣  
 如  
 万のりや老ふくうら年のえ  
 岐阜  
 落楮  
 若もをうらうらてんま君那梅  
 龜洞  
 伊勢浦や舟の中林むらねのえ  
 同  
 大山  
 昌碧  
 昔のまちひささうらう茶  
 元廣  
 小相子愛やひらきむまつのり  
 舟泉  
 う男千秋あをなまひけ  
 同  
 重五  
 山はあふらうらうらる電うね  
 同  
 釣雪  
 月言の初々花色のをくりが  
 同  
 一井  
 連くもてあふはせりう万歳樂  
 同  
 一井  
 うら白もまらうらう津のをさうね

足ぬわえじこや新玉の年の海 長缸  
 今朝と籠く縄やわしく柳が 荒弾  
 白鳥暇やふくの面、いつのうらん 同  
 道草や舟の通のうんふく川 湍水  
 併より花をこころこころの長 京 とえ  
 蹄のまやぐの息といつのうらん 朴竹  
 こころやこころのうんふく柳 冬 文  
 二月の笑のうんふく柳 冬 傘下  
 夕このま寂しくうんふく柳 冬 松  
 あいふ小松をこころおりうや 柳凡  
 大眼ち去年のま寂しくうんふく柳 防川  
 雪のおま寂しくうんふく柳 昌 勝  
 傘より雪をこころおりうや 夕 道  
 柳をこころおりうや 梅 台  
 こころおりうや 野 水  
 雪をこころおりうや 同  
 雪をこころおりうや 越 人  
 初春 貞 室

志川や志つ清澄ふくんのま寂しく 荷分  
 美威のやとと疎しくうんふく柳 同  
 己のこころおりうや 同  
 我のこころおりうや 僧 般 齋  
 赤お武の宿やま寂しくうんふく柳 貞 室  
 初春

志川や志つ清澄ふくんのま寂しく 越 人  
 美威のやとと疎しくうんふく柳 野 水  
 己のこころおりうや 俊 似  
 我のこころおりうや 小 春  
 赤お武の宿やま寂しくうんふく柳 藤 羅  
 初春 素 秋  
 志川や志つ清澄ふくんのま寂しく 玄 察  
 美威のやとと疎しくうんふく柳 鷗 步  
 己のこころおりうや 越 人  
 我のこころおりうや 落 梧  
 赤お武の宿やま寂しくうんふく柳 一 髮  
 初春 冬 松

みのびーとまねつる梅のさうんが 蕉  
細代民部の息ふさぎ

梅のあふなやとらふや梅の花 芭蕉

うらひきのつとこちのる 若風

雲のやや 昨らん入 去来

阿房のや 雲とまあるも 桐

雲ふらふささ 藤と枝らま 一笑

うらひきのあふ 眠るる 市柳

雲ふらふささ 藤と枝らま 夢々

うらひきのあふ 眠るる 梅舌

うらひきのあふ 眠るる 野水

うらひきのあふ 眠るる 壘交

うらひきのあふ 眠るる 冬文

うらひきのあふ 眠るる 芭蕉

うらひきのあふ 眠るる 傘下

うらひきのあふ 眠るる 路通

うらひきのあふ 眠るる 荷兮

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉

うらひきのあふ 眠るる 蕉



玉後やうつふらえりつし 塩車  
川舟やうつふらえりつし 冬文  
つしつし 青江

蘭亭の主人池ふ鶴ををせり

筆意有るあり

池ふ鶴やうつふらえりつし 素堂  
風のうつ方と嬉しやあきう那 野水  
はるすもたうつとさゆく柳う那 越人  
尺すつりもやうつとさゆく柳う那 一笑  
はるつれく柳う風ふりつし 小春  
さるつとそて茂とさむる柳う那 一 笑  
さるつとそて茂とさむる柳う那 昌碧  
さるつとそて茂とさむる柳う那 杏雨  
さるつとそて茂とさむる柳う那 此 橋  
さるつとそて茂とさむる柳う那 杏 兩  
さるつとそて茂とさむる柳う那 松 芳  
さるつとそて茂とさむる柳う那 校 遊  
さるつとそて茂とさむる柳う那 荷 兮

蝙蝠あそびる月のやれきふ 同  
まはるるわさ統てあそぶ車う那 素 秋  
川いそふほくくうあそぶ車う那 鷗 歩  
菊のあそびるわさ統てあそぶ車う那 生 林

仲春

春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 不 悔  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 長 虹  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 傘 下  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 清 洞  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 去 来  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 昌 碧  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 越 人  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 笑 艸  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 除 風  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 一 橋  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 冬 松  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 一 髪  
春のあそびるわさ統てあそぶ車う那 野 水

あつたふとほていじゆくのき存す 除風  
 ともふつをあくじる 雑子す 一雪  
 りうろ輪繩解くやる 雜子す 塩車  
 ちとつていふやある 雑す 山寺 宗鑑  
 ちとつていふやある 雑す 落梧  
 あつたふとほていじゆくのき存す 越人  
 りうろ輪繩解くやる 雑子す 去来  
 飛今す 津山 落梧  
 不圖といてはよ居ある 雑す 松下  
 ゆんやま枝根ふひる 一井  
 ちとつていふやある 雑す 柳風  
 校欄のきふとある 雑す 梅餌  
 かやちの才とある 雑す 炊玉  
 うねやちの才とある 雑す 百歳

暮春

何のきりつめよ土まの茎す 忠知  
 ねやちの才とある 雑す 荷兮  
 ちとつていふやある 雑す 野水

草刈くき遠歩を童す 那 舟泉  
 けしきのとまりけさぬあさみす 燭遊  
 麦畑の人えるまの境す 大坂 杜國  
 ちとつていふやある 雑す 芭蕉  
 ちとつていふやある 雑す 野水  
 ちとつていふやある 雑す ト枝  
 ちとつていふやある 雑す 蓑雪  
 ちとつていふやある 雑す 蓬雨  
 ちとつていふやある 雑す 去来  
 ちとつていふやある 雑す 俊似  
 ちとつていふやある 雑す 長之  
 ちとつていふやある 雑す 長虹  
 ちとつていふやある 雑す 荒弾  
 ちとつていふやある 雑す 具葉  
 ちとつていふやある 雑す 蕉  
 ちとつていふやある 雑す 遊人

花の子も月一花もや柳の酒 傘下  
 人まむふと陸とのふ月千小 三輪 友重  
 山まゆふたさうさうさうさう 鄧踏小 荷兮  
 嶺おやわうさうさうさうさう 兼正  
 毎たふふのさうさうさうさう 亀洞  
 水さうさうさうさうさうさう ト枝  
 水さうさうさうさうさうさう 野水  
 水さうさうさうさうさうさう 同

初夏

更衣襟もさうさうさうさう 傘下  
 さらさらの刀もさうさうさう 釋 飛彈

貴拍老人のゆらたまひ ちりちり  
 香さうさうさうさうさうさう  
 としてものお裁人うさうさうさう  
 鳴山焼香とあまさうさうさう 荷兮  
 山崎さうさう

芭蕉 一井 越人 不文 藤蘿 亀洞 竹洞 鈍可 夢々 玄察 生林 作者不知 鈍可 嵐蘭 落拵 李桃 東巡 吉次

源川の巻

庵の松をこゝろくまぬかしく  
はかしのきつむらさけの如くも  
野水

仲夏

宵のるいそふくしきまわりの  
刈草のまゆふきるほたふくれ  
一髪

空のくまき陸のふをのちるまふ  
風笛

るの秋のむらりり  
合吹

のほろくぼる神のほろく  
鳥歩

こゝろく華室とくわらわらわら  
秋芳

かやう大い孫おせそくあうけり  
杏兩

るのこれ傘のくろくふく  
二水

敷の腰て澄めくろくふく  
一笑

津のたてく川ける  
胡及  
波引く津のたてく  
児竹  
是伸くく姫百合まねら  
此描  
竹の子ふり能さけく  
長缸  
争の時よりふる  
去来  
ゆきまをくくく  
野水  
お月るふ祈きまを  
天津一  
こははの小粒ふちりぬ  
尚白  
お目るい傘ふきまを  
森洞  
波岸く

おりくろくしきまわりの  
貞室

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

おろくくあうて  
芭蕉

曲は小舟のなまぬうさひのり	梅餌
鴨の葉のふさふさありあつたれそ	踏通
松の木の緑をえぐる夏跡の心	ト枝
虹の根をうらなひ中の櫂ふ	鈍可
菖の花や泥ふとろろ宵の如	同
冷しや燈のとほ夏のあこ	越人
夏のぬやふさふさ夏色あふる里	且葉
菴の面守小	
まはらうまひはうさふ夏の影は	其角
夕の光や秋のつれづれの飄ふ	芭蕉
中つたのまはむむ人のあゝぬ	野水
夕まはひぬのゆるゆるのうさか	借雪
山はあふくうづみけるのれうが	市柳
ないうちまふたのうらふねてあゝ	長虹
暮夏	
楯とちかくやうく輝のこゑ	昌碧
まの星はうけふとくむかひ	野水

夕まふ干傘ぬきぐさ垣越の那	傘下
あゝ〜うさ小枝やうらぬ木陰ふ	玄音法師
岸〜さよ白南なう〜入日うけ	去来
岸〜くはや霜のまはりに	荷兮
まきをのゆあけう〜ぬくわりが	同
かみをくのふふさう〜くさ	如風
花石のそびやまのト〜み	俊似
空〜さや樓の下中〜あゝの音	全
柳の〜と〜らや〜ゆ〜舟	ト枝
〜〜〜ちわをれてかゝる川を	末學
吹ちつて〜の〜の〜さ〜の郡	秀正
蓮のむらさき〜な〜な〜な〜	松坂
まを〜てみれ〜蓮よま〜	古梵
河岸〜あゝの〜あゝの〜あゝ	芙蓉水
ま〜〜〜と〜と〜は松の古〜	長虹
ま〜〜〜きり〜干の沖の清〜	俊似
連あは〜れ〜結〜清水〜	文瀾
川〜〜〜ふの〜ふの〜ふの〜	濠月

かこひらひ霞をたてり信ふが 尚白  
 赤雲をぬくも小娘ふとく川うね 一髪  
 空舟もや暮とふくもゆく光 改早 下枝  
 麻の衣はりとくむさくりの路 李晨  
 約律をまほ小行くも名あふく 越人  
 練の衣はくぬく蘭小似るが 素堂

初秋

ちうくぬや麻刈あとの秋の風 越人  
 楮の葉もやあつ川うねん秋の風 圓解  
 松嶋雲居の青あつく

一そふまききりーゆきききりーこ 仙化  
 うこひらのちくむや秋の夕つき 津島 方生  
 男くまきと羽織を星のま白が 杏雨  
 ぬるぬい海女をまぬさくううね 芭蕉  
 葎や垣をのまくのまこららこ 文鱗  
 あさうねの白きいあふくえぬ也 荷兮  
 子守守るものよひひ白の白あふく  
 おもれとこのふふやるねくらふの 同

隣れるおのね竹ふらうーとて 陽歩  
 あさうねやひらひのふふある母 胡及  
 まゆりけちふゆのふやや雲の音 龍彈  
 松風や志らさのう小法をらん 去来  
 渾一さそをなふう約巻の那 昌長  
 野道くま物まきうるひかたくれ 警灯  
 きんりーとて地巻ききききききき 一髪  
 あれふと六編まきとけたらううね 素秋  
 ひらうつまやきこのふ東くふく西 芭蕉  
 ふまねてんちわらううや萩の花 其角  
 ひまらうーとてねまきくやや名気 舟泉  
 桐つるもとてあさひきき葡萄が 芭蕉  
 草もまらうーのらぬれあふたふた 伏見 作者不知  
 わさるれく糸燭とまらるる為が 任口  
 けんや燭くままらんひじり 荷兮  
 宗徳法師のこまふふとらうく 堀及  
 名ものらぬわらうとらうく 素堂

とくくのとくくはふさささなるゆゆ 俊似

仲秋

かきふふ鳥のとまうらり秋の香 芭蕉

つりくと繪とるる秋の庵りな 加賀 小春

谷川やるふ食さくく秋の音 津山 益音

石切のきとすたり娘のと色 傘下

奔のねや梅結びるあまれこれ ト枝

糸のきふ人の鳥さるゆ入ハハ 伊豫 一髪

田と畑とひらうたのむきま 伊豫 一泉

ふゆり糸をつらうくあひく 重五

あまふたうとくく酒の烟 其角

あまふ人とわのひてるおまふ 東順

敷の中ふおまふくくま枝小 林斧

くくやれく地ふまふ草のまねく 越水

わうあうとくくやう秋のまふふ か賀 宗和

わうあふふふくくは か賀 北枝

和もせ及我なり秋とおくく か賀 北枝

素堂くまうら か賀 北枝

もとのまのめきつら か賀 越人

一草の草の穂瘦 か賀 防川

ねのあふあふくくまれ秋の蝶 舟泉

まのくくくあふまぬあふのまれ か賀 胡及

んあふくくくあふ市のま か賀 曉龜

圓はふふふあふ か賀 其角

内を破除六 か賀 其角

よのよ か賀 其角

きぬくくく我ふま か賀 芭蕉

りくくく か賀 一笑

りくくく か賀 一笑

ちやれく か賀 巴丈

あふ か賀 昌碧

山 か賀 越人

一 か賀 曉龜

荷 か賀 曉龜

とく か賀 其角

か か賀 其角

か か賀 其角

か か賀 其角

きくのふりぬる人や 笠帽子 其角  
 かななりて 葉のくさくさ 二水  
 かななりて 葉のくさくさ 伊豫  
 淋しき櫃の交る 伊豫 千岡  
 路の通 加生 夕  
 芦の穂やまひく 路通

初冬

あえつちのそれ 湖春  
 一松をて 三井もくく 尚白  
 山川をこれおわひ 端水

万句典新よ

えきりまの 人竹やりの 荷兮  
 人を待つらるる 目兮  
 今朝の 花をさうり 落梧  
 約の 子の下 炊玉  
 ころころ 二日の 荷兮

一髪  
 このまじく 柿の葉に 同  
 枇杷の花 人のまを 同  
 茶の葉は 川のつら 李晨  
 梨の花は 花をぬれ 野水  
 昔の川の 川をぬれ 昌碧  
 春のまじく 青葉ふり 同  
 のまじく 葉をぬれ 一井  
 滝のまじく 水をぬれ 落梧  
 石のまじく 花をぬれ 胡及  
 まじく 葉をぬれ 文鱗  
 河のまじく 水をぬれ ト枝  
 水の流れ 風のまじく 洞雪  
 道地のまじく 葉をぬれ 一髪  
 春のまじく 石をぬれ 松芳  
 ころころ 葉をぬれ 杏雨  
 雪のまじく 葉をぬれ 蕉笠

寒月



煙とあしく夜く月を白く  
あき候の大根ありふ母秋の形  
俊似

仲冬

おろろく後志の川に流るる霞ふり  
津島 勝吉

志の信とついでたそそる霞うね  
同 重治

撥の戸とほくくふるふやじ雲うね  
杏雨

いづける雲とあうせそあきと  
宗之

おののれせんとの雲のそちれり  
杜園

海を地氷のそそり歌とく  
勝吉

つとくうくくまの地氷のそそり歌とく  
除風

ふとくうくく何とくくくささ出れば  
夜舟

兼題雪舟  
つとくうくくまの地氷のそそり歌とく  
飛弾

ぬつろりとまふまふのそそり歌とく  
荷兮

ねとくくくまの地氷のそそり歌とく  
長虹

るる雪うくくまの地氷のそそり歌とく  
一井

雲舟川やゆむりあふふとてぬる  
龜洞

つとくうくくまの地氷のそそり歌とく  
合占

まふ海や羽白馬鶴白炭あきとく  
忠知

舟あきとく火あきとく火あきとく  
龜洞

朝鮮とんごのあきとく人友ふも  
村俊

井と掘りあきとく火あきとく  
とくうくくまの地氷のそそり歌とく

汗あきとくまふ雲とくまふ雲とく  
冬松

海龍騰の雲蛇めくまふ雲とく  
利重

炭窟の穴あきとくやう霧とく  
龜洞

膝帯をつとくまの地氷のそそり歌とく  
塩車

火あきとくまふ雲とくまふ雲とく  
一笑

いづこけし底起きとくまの地氷のそそり歌とく  
龜洞

まふ雲とくまふ雲とくまふ雲とく  
芭蕉

歳暮

餅つとくや肉あきとくまの地氷のそそり歌とく  
李下

おろろくくまの地氷のそそり歌とく  
尚白

わらわの後のいづこけしとくまの地氷のそそり歌とく  
野水

阿羅野

まことく備つてつる葉細くは 亀洞  
蝶々らひ花ふさげたる 籠の舟 一 髪

本居の海へてくる人のあけす  
とて行のまひしつゆくる年の暮  
まてしちかきかきうよせんとて

とくはれ行の實一いらくくと 荷兮  
門ねとうつとく 蛤一あひ 内習  
田也く荒追つたのまきさ小 龜洞

年中行夏内十二句  
供磨蕪白散 荷兮

春日祭

とくふもる店の後のはわらふか  
石清水臨時祭

灌佛

まふのひやつつふはくふ佛蓮

端午

ねも應く葵付くる髪落  
施米

乞巧奠

とちゆくわとてあそ虫真き  
とち葉のり七夕あそそえよき

撰出

爪髪を誌のそくや物ほく  
葉のまやそのとれらるるんて

十月更衣

おききのあつとこの色くは  
五節

追儺

おを執てや服ふまつて鬼の面  
詩題十六句

阿羅野

野水

今日不知誰計會

春風春水一時來

少や一派のまきとれるまきの風

白片落梅浮澗水

あまのそとふけくる梅白し

春來無伴閑遊少

花下忘帰因美景

留春春不留春歸人寂寞

岩風吹袂衣不寒復不熱

池晚蓮芳謝

暑月貧家何處有客

來唯贈北窓風

大底四時心愁苦就中腸断是秋天

香の流るるらていなり 秋の夜

夜來風雨後秋氣飒然新

秋の多むれて瓜よふんわな

遅々鐘鼓初長夜

耿耿星河欲曙天

一志まうのこころまうおそむ

残影燈閑牆斜光月穿牖

掃落や泣くる白ふまきの月

万物秋霜能壞色

白菊やまふ散てえじと秋のま

十月江南天氣好

可憐冬景似春美

こころまわさる身つくま

寂寞深村夜殘鴈雪中聞

佛名の礼す 獨懐く白髮小

禪窓の投ひのこころ

白頭夜礼佛名經

佛名の礼す 獨懐く白髮小

禪窓の投ひのこころ

禪窓の投ひのこころ

禪窓の投ひのこころ

ささくふとくく

鋸鐮目立

舟泉

かきゆふの夕日よいそつりか

付木突

お月園多結ていあし人の家

鉤瓶縄打

かきゆふの夕日よいそつりか

糊賣

あさあのかささしりおむつてのこ

馬糞搔

らりりのねのまうことつまて

李夫人

越人

魂在何許香煙引到焚香處

わけうふの抱はるしつらりおれ

楊貴妃

雲髻半偏新睡覺

花冠不整下堂來

らり風ふりゆふことつらりおれ

昭陽人

小頭鞋履窄衣裳青黛點眉

眉細長外人不見々應笑

ゆの般あやびりの妻の伝わり

西施

宮中拾得娥眉斧不獻吾

君是愛君

たなうし樹のしらう牡丹か

玉脂君

玉貌風沙勝畫圖

よのふゆもまきれぬきの柳か

一日あまをまきれぬきの柳か

卯

あまのねやの佛供焼たふおの

辰

釣雪

たなうしん給あまのあま日あ那

巳

海歌の眺しあつてふあま

午

あけぼの草平よと踏まると

未

蟬のさふ武家のふ合さうさう

申

あけぼの草平よと踏まると

山

あけぼの草平よと踏まると

野鳥

あけぼの草平よと踏まると

里虫

あけぼの草平よと踏まると

海魚

あけぼの草平よと踏まると

川魚

あけぼの草平よと踏まると

牛馬

あけぼの草平よと踏まると

穿牛鼻是謂人

一方いぬさく極の徒本小 越人

藏舟於壑藏山於澤謂之固矣

而夜半有有力者負之而走

からなうし師老の市ふるさ

絶聖棄知大盗乃止

七ノとゆのきこことなまじう

鈍者天

あけぼの草平よと踏まると

鈍者壽

あけぼの草平よと踏まると

藤房

あけぼの草平よと踏まると

師直

あけぼの草平よと踏まると

一休

あけぼの草平よと踏まると

法然

○阿羅野

つらみのつらみいりれきうつら 荒 陣

山 岩

ゆくゆいさうり減るる雲の角 湍 水

海 岩

苔ころころ海やと玉もわうらうら 全

名 所

ふさのまを奥と見えぬ新田小 杜 國

まゝ突の背や武終う大に山 荷 兮

かゝ松花松を花より脱少く 芭 蕉

菓一把うらうらと見えぬははら小 湍 水

暖湯までいんりあゆむぬ花整 荷 兮

琵琶橋眺望

音あたる鬼獄さびさばせ小 會 帖

園をえてまをさうらうらと見えぬ 宗 祇法師

美濃國園とつらみの山寺

夏のぼろろとそそて冷くもくもや

道路あて布子賣とて一更 夜 杜 國

まうらやゆかかれき志望の里 重 五

むらあふうくれぬりのや海田の橋 芭 蕉

湖のあまきりうらうらと六月雨 去 来

牛わねーもねのあまりの六月雨 一 髪

角田川ふく

つこのわれは海蔵の結合ひふ都香 貞 室

みうーゆーいこのふ秋と貝の音 破 笠

つよよふいゆこはらうらの秋小 芭 蕉

夕月や秋ふあまうらる角田川 越 人

九月十三夜

あまふあまあうらうらの月と見え 煮 堂

眺実のるやうらと見えぬお田小 胡 及

眺実ハ望海のあまのしきと小 洲 支

武蔵のやうらと見えぬ時西 舟 泉

湖をなげうらと見えぬしらうら 尚 白

かゝ橋やとまうらあまをせく神小 随 友

むらうらと見えぬと見えぬあうら小 洗 悪

あうらうらと見えぬと見えぬあうら小 俊 似

あうらうらの相海橋や小師の奥 津 島

あうらうらの相海橋や小師の奥 一 笑

雲のそとにそらをて川ふくくれり  
よしむふゆ唯大雲の夕のち  
早雲のやをををよくや留ふも  
あふの月や不彼のの小家の煙をくひ

旅

き龍よりよふやゆらふ作の那  
大和國平尾村あり

花の茂隆ふ似ゆる 鹿座の那  
桜さく空を眠さく 雲ららるこ  
日の入やあふさくくり 柳の花  
のうらや 湊のさのせさこおぬ  
いし川にさく流ふゆいぬ夜くへ

あふ人の感列ふ

かきさけあふさくさくさくさくさく  
春のらぬさく食さくさくさくさく  
あささくさくさくさくさくさく  
あ日るや花目とあさく市の夜  
夕さくさくさくさくさくさく

湍水  
野水  
芭蕉  
如行

芭蕉

全  
夕楓  
一髪  
荷分  
芭蕉

除風  
冬松  
昌碧  
松芳  
傘下

芭蕉子と送る

梅さふふさくさくさくさくさく  
あささくさくさくさくさくさく  
秋風ふさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく

我人穂さくさくさく

あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく

梅さふふさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく  
あふさくさくさくさくさくさく

釣雪  
一井  
野水  
芭蕉  
路通  
荷分  
鼠蹊  
舟泉  
鼠蹊  
荷分  
野水  
芭蕉  
路通  
荷分  
鼠蹊  
舟泉  
鼠蹊  
荷分

はるもの暮とわのまの秋の言 文鱗  
多秋たと志くくくくよるの言 芭蕉  
味なきぬ刀くくくく村なき秋 津島 常秀

いゝあふく芭蕉子よきく  
いゝあふく舟屋く彼もほろひを 荷兮  
あふく一羽織ハ綿の入りく 野水

其角ふわつくとさ

あゝゆいこひくくくくあるたの宿 荷兮  
あひくくくくくくくくくくくく 越人  
うら尻のさふくくくくくくくく 傘下  
里人のくくくくくくくくくく 宗因

越人と吉田の驛あゝ

きくく秋と二人旅あそこのりた 芭蕉  
桂葉くそくくくくくくくく 全

述懐

叶尾と捨くくくく付

きくく付とふゆきくくくくくく 路通  
ふと捨守くくくく付と捨くくく 快宜

余はの田れ陸入ぬと浮せうね 落梧

高野あゝ

あゝあふちくくくくくくくく 杜國  
桜くくくくくくくくくくく 梅舌

高野あゝ

父母の志きりあゝ一航子のみ 芭蕉  
らああきくくくくくくくく 荷兮  
さうふ入湯とくくくくく 全

一卒のあきいむあまうくくく 杏雨  
肩あハ後子あそくくくくく 杉風  
似あそくくくくくくくく 亀洞

九月十日五堂の亭あゝ

かくれのやとあまの甲あはる菊 嵐雪  
くくくくくくくくくくく 曉龍

人のいさくくくく

ははははあれくくくくくく 芭蕉

旧里の人あゝくくく

くくくくくくくくくくく 杜國



鎌倉建長寺ふまうて

あまのついでにけしきもたふらふて 越人

らう人のわかさより名もあはれしく

あまのついでにけしきもたふらふて

荷兮

あまのついでにけしきもたふらふて

飛弾

たつらまの噂有や冷ん境のこゑ

去来

櫓のちよ親らふとそらに陰ねの影

西武

月やまじり耳やちうりる年の音

芭蕉

あまのついでにけしきもたふらふて

除風

あまのついでにけしきもたふらふて

一有妻

あまのついでにけしきもたふらふて

除風

あまのついでにけしきもたふらふて

文瀾

あまのついでにけしきもたふらふて

心棘

あまのついでにけしきもたふらふて

長虹

あまのついでにけしきもたふらふて

尚白

あまのついでにけしきもたふらふて

小春

あまのついでにけしきもたふらふて

越人

あまのついでにけしきもたふらふて

俊似

あまのついでにけしきもたふらふて

舟泉

あまのついでにけしきもたふらふて

嵐蓑

あまのついでにけしきもたふらふて

松芳

あまのついでにけしきもたふらふて

冬松

あまのついでにけしきもたふらふて

昌碧

あまのついでにけしきもたふらふて

無常

あまのついでにけしきもたふらふて

末期了

あまのついでにけしきもたふらふて

守武

無常迅速

嗚つたゞりしやうねさげし一の曇が 傘下

末期

南斗や元々有明のほろを 坡 元順

松坂の浮瓢とらん人のあまらう

くまふんやうらゝ

橋のまわり 籠をぬきつりたり 荷分

いむこの道きよ

ものうらふれし ぼろきよ 京 去來

あまふんしなる純なる附了き

あまの山風とくちあまのちきりり 荷分

世とあまのまのまはうらゝ

あまの月の相の 一 野水

辞世

あまの世灯籠 一 主コ新

あまの 一 頂

似て顔のあま 一 一躍り 落楕

一原野 一

あまの 一 小町 一 骨の 一 釣雪

あまの 一 道 一

とこれし 一 里人 一 悦

李下 一 妻の 一 去來

はら 一 去來

ユ 一 其角

その人の 斬 一 秋の 一 尚白

あまの 一 子 一 の 一 尚白

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

釋教

伊勢 一

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

あまの 一 人 一 の 一 芭蕉

西行上人五百歳忌小

とのきうとつねあはる 横うね 荷兮  
おぬいさきふ

連翹やまらむとまされりて 胡及

うて有ふ蟻の巣うらる二玉小 松芳

本居もく傍も有るる夏の花 杜園

はらうととを庭く敷く糸のち 冬松

花小酒僧とも燈ん燈さうれ 其角

貞享つちの之辰の歳生一日

東照宮の別當僧正の法房小慈惠

大師遷座執事法華八講の侍りた

るわれは聴聞ふまうりて序品のむと

散花のるいじりてぬりて 越人

女房の独す所とそとて中庭くれお

啼きこゝろの龍女成佛のふもてま

ひあてと鼻くむ声のまらむと

ほろりと落るなるもやあひのむ 全

親善の尾上のはらうとつねあはる 俊似

古寺やつらぬうの壘草 一井

ハヤコト

あまの丸をよひらむやふひ 十閑

あまの丸をよひらむやふひ 一井

夏草や本居くくの白湖花 葉葉

まらむと

灌佛の目よせと批まふ麻子小 芭蕉

灌佛のまははらうとつねあはる 尚白

まらむと

海のあまの丸をよひらむやふひ 一雪

海のあまの丸をよひらむやふひ 一笑

十如是

おのころなうれて通る 荷兮

即身即佛

夏草のまらむとつねあはる 愚益

ほらうらむや傍の燈とる夏草 鼠彈

おとろくやにのてあつて 荷兮

おとろくやにのてあつて 探丸

おとろくやにのてあつて 探丸

石室小施賊鬼の柳のつらき河の 文里  
魂を舟より酒をよむ亭の 龜洞  
たまはつりるるあつたれば 卜枝  
松竹のちりらるる松の蔭 釣雪

平等施一切

松竹よりくくり人をとくまきり 俊似  
福来ふ大佛とてむ聖平小 荷兮  
松竹より川邊水くくまきり 卜枝

何人四州の事ありとくらぶ  
勢とて不食不國とく威

あり居とくくす

屠とくぬを佛よりたつとくめそ 荷兮

ある寺の奥行ふ

壺とて由寺の報うくてうく 其角

まきくくくくくくくくくく 一井

神のまよふ本佛とくくく法作小 卜枝

人ののまよふあるとくくくくく  
ふまきくくくくくく

夜とくく又とれくく一樹 有 飛彈

後倉の安國論寺あり

ふまきくくくくくくくくく 越人

古寺の雪

雪や伽藍くくくの雪見とく 荷兮

同

雪や伽藍くくく二玉の斤曉 俊似

つらつらとくくくくくくくく 一井

千観つるむくくくくくく 文潤

其角

藥玉品七句

如寒者得火

かつあふくくくくくくくく 胡及

如禄者得夜

雪のりやゆきゆき入らまのま

如商人得主

双六のあまよひとくくくつら

如子得母

○阿羅野

竹さそくおきそをなつてけけけ

如渡得船

おのころの隣の橋をききうらり

如病得醫

うらうら清きあはれける少きうら

如暗得燈

秋のあやあはれゆる時ふあそそ

神祇

古きやまももろくは柳子既

二月十五日(祭)

はらけりや古田日の月の梅

あひくは梅をうらうらなちり

あやうらあひくは梅の梅

とらけりやあやうらあやの梅

灯のあやうらうらうらあや

あやうらうらあやうらあや

釣雪 荷台 全 龜洞 昌碧 鈞雪 越人 舟泉 雨桐

門あそく梅の湯籠をのみるを

繪する人への後のさくくうら

あやうらあやうらあやうら

宮の後川うらうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

重五 玄察 鈍可 李桃 好葉 玄察 龜洞 未字 荷兮 尚白 松芳 落梧

若宮奉納

きくきくあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

あやうらあやうらあやうら

阿羅野

利重 野水 昌碧 村俊 ト枝

祝

肩付といふふなりぬぞまふく 冬文

荷字四十のまふ

貴まを竹をまきふんぬるうれ 重五

毛の代や しくく 玉れきまつも死 越人

まき若い何れもや 枕 沖の石 傘下

いさこいゆきそのよふ杖つらむ 亀洞

ふ代の秋わらひふあふ 同

志を しくく くれみくる人ふやまき

は役く物とわのまきこりり 芭蕉

曠野集負外

維う花をわをさうらむきと枕う中中ふ

けつく朝のまききとえんぬ 承東四明

此麓ふ有く花のさうらひらまきとむと

まことけく佐川田花六のうの山あさ

わあくとしるまをまふう人すす又

ま喰一居くまてわさきか

は句尾陽の野ふふの他とて芭蕉翁

の情へとまをさうらふす一ふはの山

田野一居とらうつてまふはるを感す

びりあまと有る人の守ふ虎の物結

きふさうらふ進をれさる人あつて結う

色とま しくく 一 旗のぬらふへの

らさるるゆたのまき 様とまて實

にわの三色のまきまき 實入の

字老杜のさうらふまきとや 花居のまきと

まきまき

まきまき 枕をさうらふまきまき 素堂

これ文人のこころつらうくそはれ  
と三人をさす夜も終る

もどきかき及孝のうけあふ 野水  
橋の路と志とふまのまき 荷兮  
かの志向ちあふるなこ一葉うそ 越人  
門の石垣は園のやまうらぬ 水兮  
風の目利と袖秋のやま 人兮  
武士の意もつ山いれをこぬ 水兮  
志まわりふついで水の鳴る音 人兮  
空より経よりあまきまのこ 水兮  
時やとられくさるむらむ 人兮  
まのつり松原まきまのるの橋 水兮  
千白くねむむ山ゆてら 人兮  
塔さくく一葉を揺ると嘆ばり 水兮  
あてこしかなを夕月ねくね 人兮  
霧の身は流のやうなるおらふ 水兮  
秋とちふなく登人のまき 水兮  
鳴るやら西と東と塔の声 水兮

さびうなりくる利根の川舟 人兮  
その目もてうくくしてかき墨 水兮  
取よりりけと羽織うらまき 人兮  
ふらふらこきまの市の屋いれ 水兮  
梳つてとや人のえるまき 人兮  
柏木の御氣のたのつらと 水兮  
さくやくこのまなまきえつる 人兮  
月の影より命ふくくし過相撲 水兮  
秋ふちるより里の酒とまき 人兮  
あふれこれ歩移ふ出るまき 水兮  
うれくまのふね波のまき 人兮  
かきままる謙ふ候まき 水兮  
火箸のまきまのあつて 人兮  
くくまのまきまの人のまき 水兮  
あせまのまきまの他のかき 人兮  
花さうり都といまきまき 水兮  
花さうり都といまきまき 人兮  
星をまきまの西月まきまき 水兮

○貞外

大根ささくく干小いさうし 兮

を縁や浪ふあめさきを刺とて 龜洞

はるの舟るよ酒のちささ里 荷兮

のくくやふさく胸よ花と解く 昌碧

百足の懼る茶さきけり 野水

夕舟のさめの白さとうち泳 舟泉

おこその藁と旅しりきせ 釣雪

花のあきさきさきさきぬ所を 筆

一弦さしそくさきと古綿 龜洞

乃のささくふさきさきさき 荷兮

来さるひとありふ年一茶 昌碧

いづつともあてめつさきさき 釣雪

湯後ちあつこの本跡と川也 舟泉

流しやと延わさくさく川の端 野水

たらうされしや 荷兮

秋風す女車の聲ととと 龜洞

往をささくさきさき磯の法海 釣雪

時ふわのさくさくさきさき 昌碧

八重山吹ささくさきさき 野水

日めつてやうふはせえはつさき 舟泉

らやまらふしおりうさき 龜洞

向まき実やうほさき 荷兮

垢離かく人のさき 昌碧

配所さく干奥の加減さき 釣雪

さきさきさきさきさき 舟泉

むくおよむのふつさき 野水

口ささくさきさきさき 荷兮

いづつともさきさきさき 龜洞

かみひささきさきさき 釣雪

さきさきさきさきさき 昌碧

やまの秋のやあさきさき 野水

つらつらもあさきさきさき 舟泉

さきさきさきさきさき 龜洞

夏のりやえさきさき 荷兮

桶のうさきさきさき 昌碧

○頁外



人なごふ程きくして花ふり  
ついでうらふある精進 野水

若しき嫩うきくまの氷 舟泉

柳のうらけうまきりの卵 松芳

夕のほろ深おしるくくらん 冬文

夕よききやうくくく月夜 荷兮

秋葉のそとをくくくく 松芳

うらきくくく 掃角力とて 舟泉

きくくくくくくくくく 荷兮

くまきく 砂の中のあれとく 冬文

火氣の皮の衣とくくく 舟泉

ほえせくくくくく 松芳

くくくくくくくくく 冬文

風の半くくくくく 荷兮

葉とれれれれれれれ 松芳

よきと双紙の繪とよきく 舟泉

わらふもくくくくく 荷兮

母のわらや花井の君 冬文

灯くくくくくくく 舟泉

珠敷くくくくく 松芳

陸辰くくくくく 冬文

十日のきくくく 荷兮

くくくくく 松芳

長持買くくく 舟泉

くくくくく 荷兮

馬のくくく 冬文

くくくく 舟泉

くくくく 松芳

くくくく 冬文

くくくく 荷兮

くくくく 松芳

くくくく 舟泉

静るふれしる花の膳ももら  
きららきや瀑布を流しおどろ  
らう面白き山くららの歌

松芳  
冬文  
荷兮

ほろろをゆるぬおのちあて  
るのつらふふとて戸の口

野水  
荷兮

川流一車ハ琵琶のかさきあて  
あゝさうねとも人のうらひ

野水  
荷兮

月の秋旅のまゝさふおもあり  
一荷にあふ一おのきくらしや

野水  
荷兮

知あゝ一もつせの寮の端とた  
葉細ふむれとよもりのきり

野水  
荷兮

玉肥と夕くふふさよせく  
常判おとせ神をわのらき

野水  
荷兮

道徳のついでとてけし休ら  
六修ふあるとてあつらひ

野水  
荷兮

代まわりとてあつらひとて  
懐を焚く一銀一ふ

野水  
荷兮

舟の静きほきよらうとて  
花咲たりとふまをわう

野水  
荷兮

天仙夢不冷食あゝ一夫の言  
うもかひけと音程の中

野水  
荷兮

た一人あつてあつらひとて  
夕せと一き酒ついでや

野水  
荷兮

弱のやとけりいほはらふ甲斐  
秋のあゝ一昔降 瑞 瑞

野水  
荷兮

えてとてとよもつらふとて  
八日の舟のまゝとて

野水  
荷兮

山の端ふれとて根とのけうわ  
きはさたさうとて

野水  
荷兮

悪き日や暖のまをらうり  
太鼓たうたり踏子けりる

野水  
荷兮

らうくとて掃らる本質の神杭  
きたこのよとて聲ふあり

野水  
荷兮

あわとてあゝぬ歌あゝ一二年  
底とてあゝとてあゝとて

野水  
荷兮

三方の救む川うしちあくる  
儀奉の草穂と各くもきこらみ  
殿くや小堤大系堤塚の苑  
人ねらふやくはらの川岸

水 全 筆 兮

舟のつらき舟の舟の舟の舟

舟のつらき舟の舟の舟の舟

舟のつらき舟の舟の舟の舟

舟のつらき舟の舟の舟の舟

舟のつらき舟の舟の舟の舟

越 傘

舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟

人 全 人 全 人 全 下 傘 下

舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟  
舟のつらき舟の舟の舟の舟

人 全 下 全 人 全 下 全 人 全 下 全 人 全

○貞外

ふくふくおれらうらうらおれら  
 半ハこそ守薬やまの 秋  
 ひろくくとゆるるしの秋あはて  
 人の法あはれしとていこりあ  
 あさつゝく血氣直をとなぬ  
 千せる事そのこゆふ町 中  
 ひろくくと小徳の富の定時分  
 皆同きりりヤ 念 佛  
 百万もくろむいあそ糸の奏  
 田楽きつ枕てさくく新しき

人 下 人 下 人 下 人 全 下 人

深川の歌

居ろよおあし川うらよすうらいつ  
 活あひあらふよこのはの月  
 さうま 雅窮窓あひてつ  
 理とをれまくる 秋の夕くれ  
 飄單のたそとみ石をうら  
 作ふうりまここのゆるる市人

越 人 芭 蕉 全 越 人 芭 蕉 全 越 人

わろくつ長安は是名利の地  
 醫のねわさこそ月くらん 全 越 人  
 いとくんと師乞の室よまをこ  
 むろく 世話や 寺のねとり  
 此甲ふ古き言葉のなをつて  
 足踏もつせぬ 雨のあけほの  
 きぬくつやあまうかちぞ 芭 蕉  
 月と花ははらの言ねとわい 越 人  
 おいそくさこそ 母はちるをけま  
 月と花ははらの言ねとわい 芭 蕉  
 さを産さん つるらりの肌ぬき  
 破と戸の打うつらける春の末 全  
 足さへさひり さまのいさこり  
 家丸くて 腹あつて一寸後 蕉 人  
 かのおひあひあ 神子のわれいん  
 人まへうらまこ 花の白ひらる 蕉 人  
 初巻ふこるる 堂の斤觸 蕉

蕉 人 蕉 人 蕉 人 蕉 人 蕉 人 蕉 人 蕉 人 蕉 人 蕉 人 蕉 人

ほろほろ花のあるく寝申う  
垣のわけあいにほろほろ  
あやうくたがふ嫌うななりを  
何れをいたつたかこつむと  
此月のらそのをよめて清きらふ  
砂とまきく鶴ういねくらし  
秋の田とからせぬらまのまひま  
さひくわりのう文字同ふら  
いうりく尾鹿の本某屋  
馳をらる子の瘦くうひわき  
花の法持茂まをくらやま  
田うーと喰く膳さくら

人 蕉 人 蕉 人 蕉 又 蕉 人 蕉 人 蕉

公卿の伴なをまじくある人の  
まじりきふ

其角

三枚この月をそなうらうら  
三枚秋のなうらうらと行つらう

越人

能くよまうう柔いあふなる  
新うまそ裾ふのけらる夏衣  
蓋きまういあうあうこの後  
恨く涙まううとまうう  
静水示うと静とまうむら  
空蟬の聲魂の如のわらうき  
何とあうりける金二万あ  
いそわきまを他人をかむら  
やけとあうりてえーつふうら  
酒熱さ再ふつととととととと  
奥とつてぬ月の仁の舟  
そめいらのませい沙きふ秋のこれ  
花とさうととととととととと  
饅頭とうれしき種ふ包らうり  
うきせあつととととととととと  
西王母東方朔も同ふいえと  
よりや鸚鵡の舌のこしりき  
あらしきわや戸ふととととととと

角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人 全 角

色の親とともまふねくうのまん  
中におひい座りねられすうち身を  
あつてまを師をありりて  
夕鴉宿の長さ小腰のく川  
いふ川のさきと若く強力  
定らぬ小塵うちをらぬいふ  
ひくたごころくく伊勢の小羽  
ほひふ不敷後とわうえをや  
念若法師、秋の河さう野  
夕まふれまごうらめき紙子釈  
うまふいこる実あけのま  
及もふむ食の結る垣あひく  
わのきくわぬるまの園とり  
糸のまふあまふと勝とりこ  
むくろまふと興淡のま

おむらし秋風川人の碓氷き  
秋うとまきー川も湯嫌

嵐 越 人 全 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人  
雪 越 人 全 全 人 全 角 全 人 全 角 全 人

舟の宿書と門ちくま申おねて  
水面葉の草とけ小甲く  
とねあひて物あまらぬ里のる  
川越とまを蝶下ののこち  
疵瘰魚の透とけ糸巻のまき  
唱あひまふ守をわらうやる  
わくくくくくくくくくくくく  
ほまふいよんやうのうくくくく  
とねまふりいけあまをるまはな  
けりたえらしてこくる浪人  
まねと堪あうとこ一川脱  
明りの髪とる宵の月けけ  
まくまの籠てはねる如若  
つむくれの響者のくくく染や  
ちるたよりくくくくくくく  
よんこまふい何をわららん

野 水 人 越 雪 人 越 雪 嵐 人 越 全 雪 全 人 全 雪 全  
初雪やこくくくくくく初雪よ

○貞外

日のみしうきそそその朝記  
山川や替の替ものどさうすん  
跡とそきくくそくくくけま  
かゆらま押合月小草跡川  
何くそくくくく老徳の萩  
川流の寄あそけり秋の霞  
おふと痛つる流のきこま  
くくせことよりぬくくくそ様不  
まぐくきわふ比のうきこい  
文う秋の陽いじつくくそ  
こくくくく記を相伝の借  
衆のねあちれりくくそ  
鹿とるらちのふか鹿とこ  
まぐくまぐくまのむ子ゆ一文ふ  
わすかまぐくく月のわらわら  
身白菌やよくそまのねあち  
具まぐめまぐまのぬか平  
川やわくまぐまのぬか平

落野落

全梧水梧水梧水梧水梧水梧全水全梧

山伏はく人老の候ふ利  
くくくくくと替あけくる茶車  
提灯をくく流くくくくく  
何のそと流る人髪と髪ゆひ  
まぐくく物しゆまぬは流たのさ  
を何くくくくくくくくくく  
かふる春年と流るくくく  
何やまぐくくくくくくく  
柿ちるくくく例の建道  
新あぐく月をそくくく十間  
寂きく秋と女史居りく  
古とよまぐくくくくく  
巻ゆてまぐくくくく人の酒  
ねくこの干真瑞るくくく  
誰くくくくくくくくく  
去るのくくくくくくく  
何くくくくくくくくく

梧水全梧全水梧全水梧水梧水梧水梧水梧全梧

○貞処

一里の炭賣いの門をこめて  
 かきひの先は龍歩不朝  
 ささくら花や二木をとりお後  
 肩衣を何れを酒よまふ人  
 夕月の入きも早き境きそ  
 たれし小新とつてこむ秋  
 里ふつて確むふ二三日  
 交司うまうむれらまて  
 阿をれも水へくおの言ふ  
 昔を籠もまて切ほく文  
 うりくも麻籠かへら湯とわす  
 冬ゆく秋年の紙の雲 鋤  
 かつてまうよりあひて六打  
 鈴とてまてね女中なり  
 浦舟小控ふまてる月係し  
 みつものまて記伊のま魂を  
 おあ若のまて射てまあの渡  
 蒜とらふあふまてまてけり

一 井  
 鼠 龍 胡 一 長 一 鼠 長 胡 一 鼠 長 胡 一 鼠  
 彈 及 彈 及 彈 及 彈 及 彈 及 彈 及 彈 及 彈 及

はるのそれあまきくも腫るら  
 紙子の綿の裾くはる川く  
 たれまてる目もまのくま  
 花をわもあまてあまて  
 本をまてあまてあまて  
 秤くまてる人く乃 奥  
 はまふなりくあまの跡も  
 ゆくもせはふつて花つる  
 ままてる時子の影のうま  
 こまてるあまてあまて  
 市を縁入道のまのまをけ  
 衣くまてる人のあまて  
 毒まると瓜一きれも  
 片風もまてるまてる  
 花をまてる破布ぬまて  
 るのぬけくもまてる丸  
 めくまてるまてるまてる  
 又わてらまてるまてる

胡 長 鼠 一 長 一 鼠 長 胡 一 鼠 長 胡 一 鼠  
 及 虹 彈 井 及 虹 彈 及 虹 彈 及 虹 彈 及 虹 彈

○貞外



炭俵序

此集と撰める孤を野坡利牛らゝ常ふ  
 芭蕉の軒くけのよひ尾の窓をひ  
 らと心乃泉とくみちをくく十あまり  
 なるのみ字の野原とそけいあつ家  
 軍也我れあつあつはませむ秋  
 こけ二三子あつあつ大橋ふり  
 とあつは庵とくわふはをほとけ宋人  
 のも亀あつあつとつる薬はなつんや  
 あつあつお着ふ橋のさつやつらと世ふ  
 おき橋ふあつあつ今集の松のたきよ  
 ちあつあつとあつあつまういづる本のこ  
 ころあつあつ入はつあつあつあつあつあつ  
 そのの足小魂のまつあつあつあつあつ  
 とあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 のあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 てあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 らあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

とある炭の筋をさしつけし〜と此書を  
 かく好むもの、詩の正義ふしむる九川の  
 志れある、いやまゝの巻くものも〜い  
 けり〜と例のしふ似せ〜とある、あ  
 竊あゆり〜とあり〜とあり〜とあり  
 蕉翁旅行の首途、うやりのまを携へ  
 て、再會の期を要り、川はあ、集のふ  
 びて、おれを、おれを、おれを、おれを、  
 とある、炭のふる、舞を、〜とあり〜とあり  
 月よ炭を〜とあり〜とあり、誹也、〜とあり  
 り〜とあり、〜とあり、〜とあり、〜とあり  
 小や、は、〜とあり、〜とあり、〜とあり、  
 めて、〜とあり、序書、〜とあり、云、〜とあり、  
 ぬ、今、は、〜とあり、〜とあり、〜とあり、  
 ぬ、お、つ、〜とあり、〜とあり、〜とあり、  
 ほ、あ、〜とあり、〜とあり、〜とあり、

五律七の正夏、同、〜とあり、  
 芭蕉

梅うゝよの、〜とあり、  
 芭蕉  
 ち〜く〜とあり、  
 野坡  
 家、〜とあり、  
 全  
 上、〜とあり、  
 芭蕉  
 宵の、内、は、〜とあり、  
 全  
 霧、誠、を、〜とあり、  
 野坡  
 ぬ、〜とあり、  
 全  
 娘、と、〜とあり、  
 芭蕉  
 ち、〜とあり、  
 野坡  
 〜〜、〜とあり、  
 芭蕉  
 ぬ、け、〜とあり、  
 野坡  
 け、〜とあり、  
 芭蕉  
 終、曾、尼、の、持、扇、と、押、へ、さ、す、の  
 野坡  
 こん、あ、〜とあり、  
 芭蕉  
 ち、〜とあり、  
 野坡  
 ち、〜とあり、  
 芭蕉

○炭俵

町流の流らりと解く花の陰  
 野坡  
 門く押さく壬生の会の俳  
 芭蕉  
 赤風のせよの書のさのあのと  
 全  
 ちよの店のさのうのふの航のわの川のらのぬ  
 野坡  
 江戸のをの右のむのひののの書のをのせのらのれのて  
 芭蕉  
 このちのあのれのれのとのうのうの向のとのうのす  
 野坡  
 方のうのふの十の枚ののの内のののうのひののの書  
 芭蕉  
 桐のののあの言のくの月のうのゆるのあのうのと  
 野坡  
 門のちのあのうのくのあのうのつのてのあのうのあのうのと  
 芭蕉  
 ひのうのふのとの今のての表のののいのまのとのる  
 野坡  
 このうの年のふの女の房のののあのやの振の舞のて  
 芭蕉  
 又のこのののものとの休のぬの字の人  
 野坡  
 法の中ののの湯の治のとの送のるのたのとのり  
 芭蕉  
 繩のとのりのくのまのまのののあのま  
 野坡  
 とののの家のものあののの方のあの字のとのあのけ  
 全  
 真のふの書のあのくのまののの雑の炊  
 芭蕉  
 ふのもの鳴の一のおのくのあのまのうのれのり  
 野坡  
 未のまのののうのののものてのぬの茶の用  
 芭蕉

隣へと知らせと疎とつれまで  
 野坡  
 屏風の清くくさゆる葉子魚  
 芭蕉

三吟

蕙好と遊かりりくは花さうり  
 嵐雪  
 あさみや菅く雀籠とらる  
 利牛  
 斤道とまの少飯のくまうて  
 野坡  
 糸とらましく小冊人相撲場  
 嵐雪  
 細くと朝日らうの宵の月  
 利牛  
 早稲も晚稲と相生ふある  
 野坡  
 泥濘をまこと流くのをいひら  
 嵐雪  
 けちこそをれい登のうのう川  
 利牛  
 隣くう草くく跡とあふある  
 野坡  
 てふうくくくくと巻るういわり  
 嵐雪  
 忌谷のらちの多崎を護院  
 利牛  
 お百のうけと二百ふをり  
 野坡  
 濁あきのののの政ある書の上  
 嵐雪  
 人のさくらぬねらうむあり  
 利牛

新及の鞍とトせそ日うれて 野  
 坂の中なる芋とほる月 嵐  
 洲とる浮やうくあそこの外 利  
 籠尻みくく又斬のく 野  
 をよのくきかふきぬく 嵐  
 抱揚る子のお便をさかぬ 利  
 くくくくくくくくくくくく 野  
 幼うくくくくくくくくく 嵐  
 くくくくくくくくくくくく 野  
 産佛の細きおきくくくく 嵐  
 此うくくくくくくくくく 利  
 桑の穂はかしく吹ぬく 野  
 る場の喧嘩の初ふくくく 嵐  
 宵とくくくくくくくくく 利  
 今くくくくくくくくくく 野  
 賣ふくくくくくくくくく 嵐  
 ひらりくくくくくくくくく 利

獲食の後きくくくくく 野  
 うくくくくくくくくくく 嵐  
 他何の母とくくくくく 利  
 まくくくくくくくくく 野  
 少くくくくくくくくく 孤  
 空豆のたきくくくく 屋  
 豆のふくくくくくく 芭  
 と浪とみくくくくくく 芭  
 と川とのそけくくくく 利  
 産前くくくくくくくく 芭  
 くくくくくくくくくく 孤  
 おくくくくくくくくくく 利  
 暁のたぐくくくくくく 芭  
 妹をよのくくくくくく 孤  
 傍那ののくくくくくく 芭  
 風細うおぬくくくくく 芭  
 家のたうくくくくくく 利

○炭俵

縦汁わろし若かりしやうなうし  
 葉の露をさそひくく愛出き  
 このまのさうやう花の静あり  
 う純く柳を今あそびし  
 言の糸切るるもろもろ  
 ふとん丸けくもれおひ居る  
 不届な溝と中の中うう  
 まつら坊主ととくあうりま  
 流るのゆきさうふゆきふゆき  
 花さきさきさきさきさきさき  
 花のまふまふきんてねれ汗と花  
 客を送りくく抱る髪 臺  
 今のまふまふのまふまふと持て  
 ま首まんとことあめらさうさう  
 息災ふ徳文のまふまふのまふまふ  
 鳴息ちりぬ七夕の思  
 五月のまふまふせきさきさき  
 まさしく言ふてあふさな  
 芭蕉 孤屋 岱水 利牛  
 孤屋 芭蕉 利牛 芭蕉 孤屋 岱水 利牛 芭蕉 孤屋 芭蕉 利牛 芭蕉 孤屋 芭蕉 利牛 芭蕉 孤屋 芭蕉 利牛

これらるの宿のそらうりゆきさきさき  
 山の振除のねうさうおれ  
 よこそまふまふさう風の吹おき  
 晒の上うりゆきさきさきさき  
 花えみとあふまふさうりゆきさき  
 余のくらわらふふまふまふさき  
 芭蕉 孤屋 岱水 利牛  
 芭蕉 孤屋 岱水 利牛

各九句

百韻

子と裸みきとてさきさき早苗舟  
 岸のいとさきさきのま白み咲  
 有あうり静敷き静のゆきさき  
 と力あさりむくまあうりせ  
 早竹ふ葉さきの油とさきさき  
 さうり静敷とてさきさき人あ  
 葉の月干葉の葉けさきさき  
 栞を泳ぐさうり櫓さきさきさき  
 利牛 野坡 孤屋 利牛 野坡 孤屋 利牛 野坡 孤屋 利牛 野坡 孤屋 利牛 野坡 孤屋 利牛

○炭俵

ぢりめよの中てさうぢりめよはあ  
坊をさうあれとやまう仁平の  
松坂や夫川へもいさううら  
吹さう時もつらき雲の後  
十二三舟の衣裳の折そくは  
幸堂もさうさうさうさう  
日のあたる方らうらむ竹の巻  
只吉あきさうりさうりさう  
を江沙のうらの細とすおわく  
天氣の相と三日月の思  
せなうらさふお進ひしこ  
様の実落るに根くさるし  
寄賣の店り連と花らうり  
ゆ乳借らうりの人のそとつ  
ほうくと二日亥のいゆひは  
わらうとあへの様よさう  
かの種と振くともさうり  
番組の糸ともさうらう

野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤  
 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋

阪く小西園武士の薙のつとひ  
尚きのふとり今りら大早  
切焼の喰例一々極々  
ららら納豆とわか豆を  
癩目とまきらうせとも  
さきさけさうりさうり  
つよあひのえとやうら  
とれりの裏のきさく井の  
とれのも様へ負ある古  
さのさの長のあまらう  
ひつとらうとささる  
戸てりらうらうら  
代透を根と粉のまらあ  
赤いあまはあさうら  
濱とも宿の男の薙と  
脚を比丘危の細のま  
麻掲の細と年々買う  
天満の状とまら

野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤 野 利 孤  
 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋 坡 牛 屋



夜今ふり回心の何とと健  
丸九十日強をこけらら  
探舟もたらさるまふら  
是をり一果登より信不  
里難と唯礼川のふらふ  
かろくわののと嫁の獲  
執ふころる朝日志未の  
くん一果登る八香のそ  
町寧ろ心甚む儀の口く  
海江う淋ろ土もよある  
夕月不醫若の名字とす  
白く成る能のやよと此  
定免と今年るいの風不  
ゆいゆはるゆもあぬか  
暑病の結ふ土用とろく  
費月ふりてこゆるを  
城せぬ船路屋のせの  
門建をを町の お 坊

野 坡  
利 牛  
孤 屋  
野 坡  
利 牛  
孤 屋  
野 坡  
孤 屋  
利 牛  
野 坡  
野 坡  
孤 屋  
利 牛  
野 坡  
孤 屋

波岸と一重の苑の  
三人なうらわゆる

野 坡  
執 筆

春之部發句

立春

草葉より少もや伊勢の初便  
赤きやまの戸をらるる松  
みらのくのふ葉紙ん京の  
まや従ふ丹波の聲い膝不帰大とく  
刀さそ懐わつとく今大の女  
いそくまをを大のかこをふま  
喰種やま香のふらふの拾大お  
程いそく門大坊大まのふ役  
目下あを申の何や年の時大更  
初日新我差こま大つま大を大や  
長松う親の存てある大は大か

芭 蕉  
濁 子  
杉 凡  
去 来  
正 秀  
洒 堂  
侍 水  
沾 圃  
孤 屋  
利 牛  
野 坡  
露 沾

○炭俵

梅一木つれくその姿う



くぬきや白の寝あめのたまりり 曲翠  
梅うまの節ふまよる卯日か 支考

空のうらやとんてんてん

梅ちや糸のまの日の白ひ 伊賀 土芳

うめ咲く湯後の嵐れまーたん 利牛

赤いこのはとぬく梅の花 游力

みちのくーんてんてんてん梅の花 野坡

あ梅に娘をまはるる雲戸り 杉風

とまのこころのせくはをたんとてんてん

とまのこころをたんとてんてん 其角

七よや粧ひをうきく切刻く 野坡

うちわれてお糸梅やふぼくゆし 仙杖

洛よりの文のそーふ

熊母一足つてもとくれうぬ 去来

大系や梅のあてまふ 僧 丈草

おろろ月まてをたんとてんてん 仙花

添川の念う

おまのやまの梅りもニケ一 利牛

十六日とや睡母の古子賣 之道  
猫の糸和子くら啼くまーん 野坡  
おこのふりくんてんてんつ胡蝶か 其角

鶯

くくひまふほくと息をるねが 嵐雪

そらう茶とんてんてんの文 其角

くくひまのあふおねやく雀か 桃隣

そらや門をたまうてんてん 野坡

そらのつあうれ会を入うたり 利牛

柳

くぬきをえつらて植し柳うぬ 湖春

膝のこー月のあひな柳うま 素龍

お人枝持らうてまーん 野坡

せまのいの尾はえけさる柳か 一瓜

所中へまてまーん家の柳うぬ 利牛

傘に押かけまーん常か 芭蕉

椿

おまろふ羅ふちりて枝のな 孤屋

枝をく伐らぬを枝の那 湖春  
 念わくもつらむ枝の 曲翠  
 涙のうらみさめみきく花後 嵐雪  
 ものねをほそむ後の赤枝 支考  
 ほそ掃陰してく枝をみたり 野坡

花

く花のさるよまのりけく  
 くる幕打はまきりのきあうこ  
 乃あはまあくあうよるかきそら  
 のねのうをたのみく

四のあまの枝をぬさるえむぬ 芭蕉  
 めららやゆてさるのまつめく 杉風  
 うらくともていさるのうを居か 文章

何ののののののの

さるよまのり

申もさるおまのさるえうぬ 素龍  
 さるや白きうらと実あもせ 去来  
 柳のの陽と丘橋や庭の花 孤屋

何とともさるのののののののの 荆口  
 たのきともさるのののののののの 斜嶺  
 柿のかさねもさるのののののののの 北枝  
 牡丹さく人もさるのののののののの 湖春  
 あくさるのののののののののののの 其角  
 さるよまもさるよまのののののののの 嵐雪  
 山さるののののののののののののの 智月  
 老僧もかさねるのののののののののの 大坂之道  
 誰れもさるよまのののののののののの 越前 祐甫  
 ふささるののののののののののののの 普全  
 昆布さるののののののののののののの 利牛  
 おらつさるののののののののののののの 全  
 おらつさるののののののののののののの 孤屋  
 食の付さるののののののののののののの 野坡

上巳

草屋と小川のなつさるのののののののの 沾徳  
 さるよまののののののののののののの 桃隣

○歳表

こつこつと神いしむる秋の鐘 其角  
 鬼のふし腕と居るも 離うね 美濃 如行  
 日半夜とてられてもや柳の花 野坡  
 麻の種毎午踏く柳の花 利牛  
 教匠やるの鳥つくりの鳥 孤屋  
 春風のたぐりまきまき 芭蕉

題一しらす

渡つちふふ今うちもむ少あむ 渡津田又 為省  
 ともや柳の葉つくりを柳の編 芭蕉  
 みのるつししの葉や二三本 子珊  
 ぼろくろみ花門のつらみ 忍 雅  
 ものり焼かすの煙や風の末 伊賀 猿  
 空相よきまきまきのまの籠 仙 華

旅のりしらす

法友場の径より川に登る 野 坡  
 比集りよこ半をさすは孤屋 旅 之とす  
 何うかふふ川までみあふ 野 坡  
 ちりまきまきまき 野 坡

梅さくらさくらと梅さくら 利牛

夏部之数句

首夏

梅夏の裏原を日く長く 嵐 雪  
 ちのく十日をゆくは花のり 野 坡  
 綿とめく結ぬはせそ 九 節  
 菅よりやまきまきの 雪 芝  
 花の赤らまきまきの 子 珊  
 庭元の暖簾白く 利 牛

うの花

卯の花やうきと柳のなご 芭 蕉  
 うの花の結るく 去 来

旅のりしらす

卯のふふ言色 許 六  
 うの花 支 考

題一しらす

梅の赤をやらう 湖 春

菰宗依池より蓬あるをうけ 素堂  
うつくしきや竹の子露ふ光と鳴 芭蕉

郭公

あまての二階ふ森よりほろき及 桃隣  
ほろきら一二の樓のあゆみ 其角  
ゆげと月のあふきんほろきを 嵐雪  
櫻竹の空ふ冷よりほろきを 杉風  
あふられてあまてのや郭公 芭蕉  
まややあまてのや郭公 素龍  
あまてのや郭公のや郭公 利牛  
子規のあまてのや郭公 野坡

麥

柿寺より麦種い中や紀より 美濃 荊口  
まの穂とまの穂とまの穂と 千川  
まの穂の穂とまの穂とまの穂と 許六  
まの穂の穂とまの穂とまの穂と 利牛  
利牛よりまの穂の穂とまの穂と 利牛  
まの穂の穂とまの穂とまの穂と 利牛

まの穂の穂とまの穂とまの穂と 野坡

みね

浦風やむらさき 磯のまの穂とまの穂と 岱水

端午

みねのや傘あけしる 小人形 其角  
ささきとささきとささきと 酒堂  
みねのや傘あけしる 桃隣  
文りあけしる 嵐雪  
みねのや傘あけしる 甲子 仙花  
みねのや傘あけしる 給少 素龍

夏旅

並ねとてうらむ町のあるをい 卧高  
ねねとてうらむ町のあるをい 斜嶺  
二三毒龍とてうらむ町のあるをい 長寄 魯町  
いげ山の力あよまぬらむをい 猿離  
ねねとてうらむ町のあるをい 芭蕉  
いげ山の力あよまぬらむをい 芭蕉

五月雨

炭俵



か〜〜戒めあふ〜〜送る〜〜むらうふ  
あ〜〜ふ〜〜さ〜〜と〜〜く〜〜あ〜〜き  
ら〜〜り〜〜な〜〜い〜〜ま〜〜あ〜〜ま〜〜う〜〜と〜〜な〜〜む  
あ〜〜〜せ〜〜られ〜〜る〜〜ま〜〜ま〜〜汗〜〜さ〜〜る〜〜

改く酒〜〜さめ〜〜く〜〜あ〜〜い〜〜る〜〜 利牛  
あ〜〜人の別墅ふら〜〜わ〜〜さ〜〜ま〜〜さ〜〜る〜〜白  
ち〜〜ね〜〜く〜〜お〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜外の  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

穂く部

秋のあそび〜〜れ〜〜く〜〜の  
中よ月と散〜〜く〜〜時候の春  
〜〜〜〜〜〜〜

各月

四月やえつら〜〜む〜〜ぬ〜〜ね〜〜ら〜〜よ〜〜く  
五月や旅〜〜ら〜〜ら〜〜ま〜〜ら〜〜る〜〜春の虚  
あ〜〜買〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜月あふ  
名月や誰吹起〜〜る〜〜表の端  
松陰や生船揚〜〜り〜〜江の月見  
湖春 去来 荷兮 洒堂 里来

わらわの懐の〜〜〜〜よ〜〜ふ〜〜の月 利牛  
あ〜〜ら〜〜あ〜〜ま〜〜ま〜〜と〜〜そ〜〜一〜〜後の月 其角

む〜〜〜の仲秋の月〜〜〜〜あて  
足持〜〜〜ら〜〜ま〜〜ま〜〜の石を飛渡と

四月や不二〜〜の〜〜〜〜〜〜致河町 素龍

七夕

笹のそよ枕付てや早む〜〜く〜〜 其角  
星合〜〜り〜〜わ〜〜え〜〜ま〜〜お〜〜や〜〜の縁 孤屋  
七夕やあ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜天の川 嵐雪

孟蘭盆

〜〜〜〜〜ふ〜〜う〜〜け〜〜ら〜〜ん〜〜軒やあ〜〜ま〜〜ら〜〜り  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜の月 <sup>江及</sup> 洒堂  
夏の月あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜と〜〜〜〜 野由

朝貞

閑閑

朝〜〜ら〜〜や〜〜さ〜〜不〜〜後おら〜〜れ〜〜門の垣 芭蕉  
朝教や日傭あ〜〜〜〜〜り〜〜跡の垣 利合  
〜〜〜〜〜ら〜〜と〜〜ぬ〜〜ま〜〜ら〜〜い〜〜を〜〜折〜〜う〜〜ね 湖春

秋虫

幸よれいあういさうらききくくく 大津 智月  
悔まらふ人のとききれやたのめくく 文 艸  
時節ふくしてあそむるぬこ 岷峨 為有  
ころらるるや著て遊ゆる後のと 孤屋

鹿

友兼の鳴とえうらる小兼ふ 車来

人のゆめふりく

兼のふむ路や坂の躬恒形 素龍

旅ののとき

と江流やまういみさる兼の亭 土芳

草花

宮城野の萩や友より秋の花 桃隣

花きくきくくくくくくくくくく 野童

片島の萩や刈りて箱の隅 旅雄

芦の穂や旅提揚る夏あくら 艾草

あはははあは

芦のちよ著くくくくくくくく 去来

か中の草樹いさく

草樹や鼻のえあるまこくくく 其角

園菊

兼畑おくある芳のらりふ 杉風

池兼とくふふふふふふふふ 桃隣

秋植物

柿のなるふとあゆみのあそころ 利牛

高梁やあふあうくくくくく 祐甫

秋風や花子の敷のあうくくく 木白

眞あ千て実ふとらうくくく 孤屋

くくくくくくくくくくくくく

うれゝ治世南をんあてえくくく

ゆああや未詳あつて天のまこく

えハツわうれとくくくくくく

とくくくくくくくくくくくく

あうあうくくくくくくくく

い油うらまれ付めふくくくく

炭俵

天資自ぬの理さうくくく

うれ、色とくくくや石まぶのせし  
 是て竹露のたしつゝああええとく  
 の仕合ありとまわらばにまらまら  
 のまらまらまらまらまらまらまら  
 てまらまらまらまらまらまらまら  
 のくくくくくくくくくくくくくく  
 くるはと朝白のくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくく  
 のくくくくくくくくくくくくくく  
 うくくくくくくくくくくくくくく  
 みくくくくくくくくくくくくくく  
 ふくくくくくくくくくくくくくく  
 はくくくくくくくくくくくくくく  
 頂くとせりくくくくくくくくくく  
 まうてのくくくくくくくくくくく  
 小きくくくくくくくくくくくくく  
 まくくくくくくくくくくくくくく  
 せくくくくくくくくくくくくくく

るまきよとあはしつゝくくくく  
 らくくくくくくくくくくくくくく  
 りくくくくくくくくくくくくくく  
 うくくくくくくくくくくくくくく  
 まくくくくく

野坡

おぼろくくくくくくくくくくく  
 のくくくくくくくくくくくくくく  
 礎くくくくくくくくくくくくくく  
 秋のくくくくくくくくくくくくく  
 草枯や草草と思はれくくくく  
 夕くくくくくくくくくくくくくく  
 くる秋は風をくくくくくくくくく  
 秋風ふくくくくくくくくくくく  
 抱丁の片徑くくくくくくくくく

嵐雪 丈草 洒堂 荷兮 利合 文考 地枝 信依 其角

冬之部

初冬



風や沖よりさしこむ山の高き  
 市中也亦其れをさす一花  
 中枝の破り今朝もさしこむ  
 松よや崩れ去りてさしこむ  
 松の葉のまのりさすや少多  
 刈りて麦の穂のさすや少多  
 風のさすやさすさす小枝  
 初冬や梅のさすや少多  
 風や 眺 <sup>一文字</sup> さすや梅の面  
 南 <sup>一文字</sup> さすや梅の面  
 本枝の根ふさすや少多  
 第目よ亦枝の穂のさすや少多

其角 挑隣 芭蕉 支梁 斜嶺 桐實 残香 楚舟 八桑  
 挑隣 荊口 文章 游力  
 時雨  
 芋谷の後さすや少多  
 さすや少多の穂のさすや少多  
 芭蕉のさすや少多  
 さすや少多の穂のさすや少多  
 さすや少多の穂のさすや少多

旅情のころ

少根 <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 大根 <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 新 <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 岸 <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 外 <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 人 <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 この <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 さすや少多の穂のさすや少多

我眉 野坡 木峰 利牛  
 奥柳や遠くもさすや少多の穂のさすや少多  
 右の二白ハ少多の穂のさすや少多  
 比 <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 み <sup>一文字</sup> さすや少多の穂のさすや少多  
 雪  
 さすや少多の穂のさすや少多  
 野坡

○炭俵

お香のそよよの鼻をーら  
とつそよや喉のあまのきつら  
香の白ふも情さうそ 鶴 鶴  
香の白やうきさうらうらうー相  
利牛 買山 依々 猿 雉

おの夜飯屋寺やう

杖のまのきつらう杖の鶴  
杖の鶴や杖やうさうの香の鶴  
おまや先もさうさうさうさ  
香のまの杖町さうさ香吹か  
湖夕 乙州 素龍  
おのまや曲突へつてふさうさ香の鶴

歌 不知

かまーこの物ふおさむ杖種羽黒小  
さうさ香の鶴のうさうの鶴  
禪門の香豆袋ぬらさ十杖小  
お火燈の香物さうれ村うさ  
白突のまらさ白ふや杖の香  
智月 之道 文草  
杖の杖やあつささ方の五六尺

庚申やこと小巨魁の何るる香  
誰とけう縁担まんで里林楽  
はくは香やまらう波の香  
全 其 角 残 香

よきよき

煤もさういばり柳つる大工うな  
煤掛 障子とさくいさ代小  
雁つさうやえ振ささるる香  
ふおのまらうあまさ 師乞小  
おまや 水よまらうさ香あつて  
智月 嵐雪 智月

歳暮

このまらう又らうらうー同さ  
さのまらうぬ舞入りありさの香  
あまさせて香一ぬさのこれ  
溜うさのけさうさの香  
さの杖いさうさうらう儀の那  
さの香あふさささささ  
芭蕉よりのまふられのさ  
野 猿 孤 屋 智 月  
坡 離 屋 月

つらつら有ー其つらつらふ

爪をくちやさくや年をり

素龍

り年よまんとくも状ひく

湖春

俳諧秋之部

秋の空尾とれ枝小離れく

其角

おんて一羽海こくも響

孤屋

新芳不日備持る貝吹く

全

舟のうとくく四非の門

角

祖よりまの古瀬もあひく

全

つゝいふや丸をころも

孤屋

下京に宇治の藁あそびて

全

坊々のまをる藁いとく

其角

足燈のふきく居るハツリ

孤屋

息吹くくも 霍丸の汁

其角

田の畔よ早苗把く投くを

孤屋

道老のたまむ編まの糸

其角

り燈のりくくさくく

孤屋

形ふかのまくくくおの月

其角

行遣く 麩のまをれい

孤屋

唇のりくく 茂なうれ

其角

中その物津桂の花をく

孤屋

むくの子ありまのまをて

其角

いさをねくく今につうひ

全

まの端のあそりき

孤屋

夏そのがふされてやれり

其角

阿まことくも小傍りや

孤屋

年の豆壺柑の核もあそ

其角

常ときわくくも風をたま

孤屋

君とくくも水鏡のあそ

其角

稗と燈との元あつる

孤屋

幸崎へ雀のこりる杖の雪

其角

おより冷れ月のを

孤屋

残福くくもくもく河の

其角

と墜れくもくくく壁

孤屋

小栗名種くく言よせて

其角

○炭俵

くちやうつゝ浮あゝの船 孤屋

孤屋 遠くより 舟もく 浮く のちり

くちやうつゝ今更の 舟もく 浮く のちり

其角 孤屋

各十六句

天野氏真行

くちやう 拾ひあつて 舟もく 浮く

くちやう 舟もく 浮く 秋風

八月 舟もく 浮く のちり

浮く のちり 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

桃 隣

野 坡

利 牛

桃 隣

野 坡

利 牛

野 坡

利 牛

野 坡

野 坡

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

舟もく 浮く 舟もく 浮く

利 牛

桃 隣

野 坡

利 牛

野 坡

利 牛

野 坡

利 牛

野 坡

利 牛

野 坡

利 牛

野 坡

利 牛

野 坡

野 坡

○炭俵

京ハ悲別家ノ事ハ  
 焼おふ畑合々る蜀田鯨  
 渡と盗んて今日をわてる  
 髪をハ雪踏くも事ある  
 先伸までハく回る入舟  
 ゆくゆく菜うかてる花の陰  
 ちつとも風のふくぬ長軍さ

利牛 挑隣 野坡 利牛 挑隣 野坡

神皇月亦日深川より野良

振賣の序あるも直ぐ之ハ去縁  
 降てハアさく時西まると新  
 番通の櫻の少女と川よりて  
 片をけらる月とさるるうぬ  
 好おの陰と縁さぬ秋の風  
 割木の安き園はあかぬ  
 網の老漁りもあふあつけく  
 星さくもさる二十八月  
 らくもさるハ好く軍のたさく

芭蕉 野坡 利牛 孤屋 野坡 利牛 芭蕉

淡氣の雲より雑談とせぬ  
 明くお花燈籠とさるるて  
 肩痺ふたる湯屋の膏葉  
 とさるの干葉刻はとさるる  
 馬よりあぬ日ハ切て急まる  
 泊買の七らちりくとさるる  
 扉より門ある五十五石  
 は清の隙鬼ゆきと物月と光  
 砂よりぬくもさるるま草  
 新島の糞もあらうる毛の上  
 鳴くもさるるもさるるよめ  
 川越の命一のあをあらうる  
 平地の寺のうきさる穀垣  
 千おを日向の方ハあさるせく  
 後おは鴨の苞おとくちりて  
 菜用不潔せとさるる多はま  
 又おはちりふむむめ 芭蕉  
 ささるる大晦日も四の後

野坡 孤屋 利牛 野坡 芭蕉 孤屋 野坡 利牛 芭蕉 孤屋 野坡 利牛 芭蕉 孤屋

○炭俵

夕暮のこのむ秋の縁先  
中へくして傍軍合の借りくひ  
登とくくきくく森せぬ夕月  
風やそ秋の路の尻さこり  
鯉の鳴子のほとらつる  
ちくちらと糸の揚場に行庚  
目黒まわりにつれのぬちく  
そくそくも花の三月中時分  
帰炭のちりととらへ春風

芭蕉 野坡 孤屋 利牛

利牛 野坡 芭蕉 孤屋 利牛

各九句

雪のねとれ口とれハ尚を  
日のあるまの春さそを  
下着と一糸戻りおひく  
あひくきくく大為の伏  
身あもる風しふく為  
雲とくくきくくひらく島地  
登るの洗されく秋の

杉風

孤屋 芭蕉 子珊 利牛 盛水

おこくくくく控節うる  
二三亭茶ふりり門の根  
るの為あめさりの干巾の  
巾のは音緒くおるまの  
指小子のさそるのそくく  
もお者のひとらくくえぬ浦の秋  
めくく風のをやるま  
宵くの月とわらくく旅六  
脊中へのちる思とくあいう  
茶むくくのきらくくよふ花  
川くくそくふ小館くくま  
おはきとれてま味とくく  
脊戸へとまを山くりく  
かのらひくく鬱くと親く  
左茶めていおねき精進日  
既来と揺くく傍くく  
つこくくく茶代の礼  
もみてくくく自持くく

野坡 子珊 水圓 石菊 杉風 野坡 利合 依々 桃隣 子珊 石菊 杉風 岱水 孤屋 曾良 桃隣 依々 沾圃

○炭俵

隣へひくく火とくろく来る  
 又々他も佛の舎て坊と唯  
 接をうりして賢くうぬし  
 大坂の人ふまれくるその母  
 酒ととも抗え祖母の舎ふ入  
 まくけぬる少糸の漏のをけり  
 次の小粒をてつふむせる考  
 約あふかきとて居れい路ふ舎れ  
 七つのうぬふ舎り路ふある  
 花のるけくくふゆふ路ゆく  
 男まーいふふ遊そろへれ

子珊  
利牛  
杉風  
利合  
野坡  
子珊  
利牛  
曹良  
杉風  
桃隣  
岱水

- 杉風五 孤屋二 芭蕉一
- 子珊五 桃隣四 利牛三
- 岱水三 野坡三 沾圃二
- 石菊二 利合二 依々二
- 曹良二

# 龜田甚三郎校正藏板

嘉永四年

亥六月發行

## 江戸製本所

日本橋西河岸町

龜田屋甚藏

本石町十軒店

英屋大助

